

報道機関に依頼する事項に○をつけてください

①実施する事業の紹介

②催事等の参加者募集

③催事等の当日取材

報道取材情報(沼津市)

令和3年4月15日(木)発表

名称等 『企画展 光治良と戦争展 図録』を頒布します

頒布開始日 令和3年4月16日(金曜日)9時～

頒布場所 沼津市芹沢光治良記念館 (沼津市我入道蔓陀ヶ原 517-1)

担当 教育委員会事務局 文化振興課 沼津市芹沢光治良記念館
電話055-932-0255(月曜・祝日の翌平日を除く9時～17時)

1 概要

沼津市芹沢光治良記念館にて平成 27 年度に開催した企画展「光治良と戦争展」の図録を有償頒布します。

2 特徴

- ・平成 27 年度開催上記企画展の展示内容を新たに編集し、企画展以降に判明した最新の情報を加えて、製本した図録です。
- ・芹沢光治良が戦前から戦後にかけて記した『戦中戦後日記』を中心資料として、昭和 12 年の日中戦争から太平洋戦争を経た戦後の昭和 30 年頃までを、光治良が作家としてどのように過ごしたのかを特集した上記企画展の展示資料を掲載した図録です。
- ・巻末には本図録用に新規作成した昭和 12 年から昭和 30 年までの国内外の主要出来事と芹沢光治良の動向を記した時代年表を掲載しています。(別紙サンプルをご参照ください。)

3 その他

(1) 本書の仕様

規格:A4 サイズ 本文 40 ページ+巻末年表 3 ページ
表紙 4 色刷・本文黒 1 色刷 右綴じ

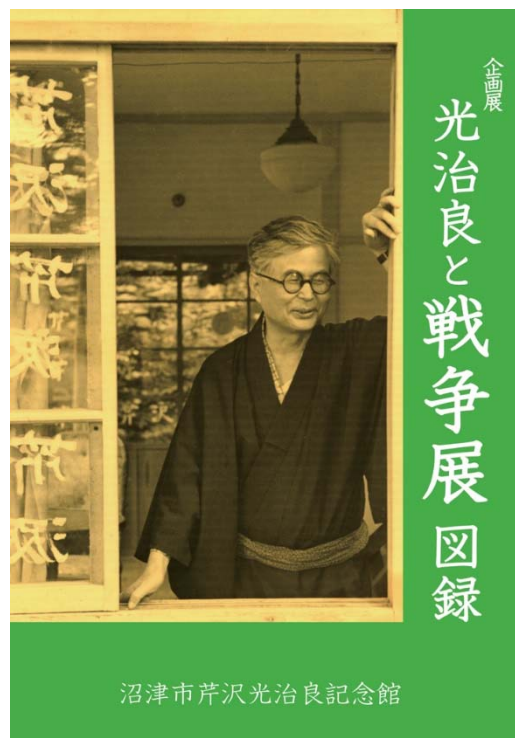
(2) 頒布価格

500 円(税込)

(3) 頒布数

200 部(無くなり次第終了)

※本文のサンプルは別紙をご覧ください。





新築する直前の東中野の自宅跡

昭和 31(1956)年頃

昭和 20 年 5 月 24 日から 25 日にかけての空襲により、書庫である蔵を残して全焼した。



軽井沢の別荘で

昭和 30(1955)年頃

十四日の約束というので出て来たが、待ってくれた様子なし。友野女史はともかく姉さんの家は闇の農家らしい。時計の代りにくれたブードルは僅かで驚く。なす五ヶきゅうり三本、にんじん七本いんげん少々キャベツ二ヶで五円七十銭。桃は(約束であったが)くれず。しかも六時の汽車まで待って、一日がかりの買物である。しかも昼の弁当を持参せず、友野さんも昼の用意をしてくれず、空腹が目がまわりそうであったので、日ざかりには長女とともに昼寝した。疲れたり。帰路桑畑で長いすきを使ってソバを播いているのを見て、色々話す。親切そうな百姓一家なり。買出しに行くに便利な家らしいと思ったが、そうした根性をはず。

終日警報なく無事に帰ったことを喜ぶ。疲れたり。

八月十五日 水

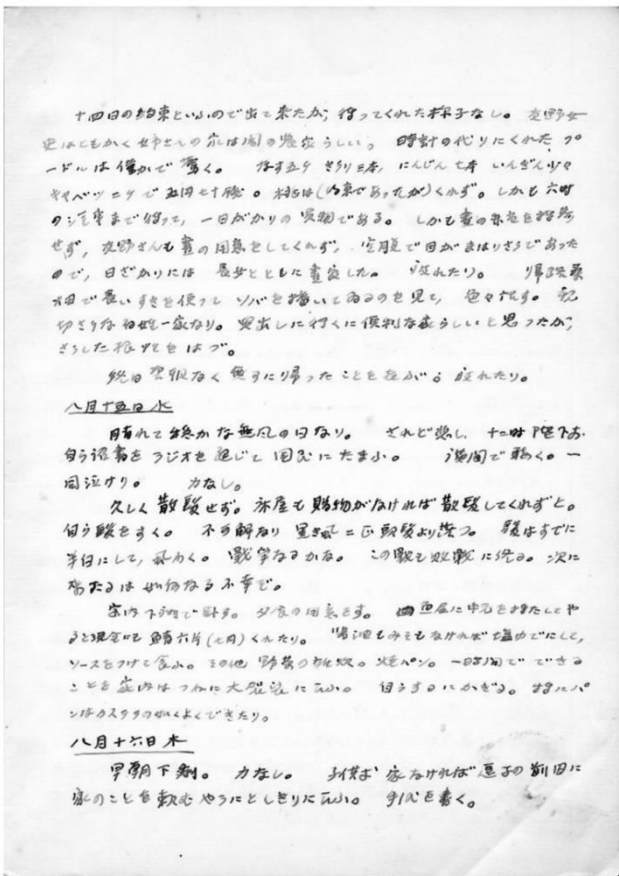
晴れて穏やかな無風の日なり。されど悲し、十二時陸下お自ら詔書をラジオを通じて国民にたまう。広間で聴く。一同泣けり。力なし。

久しく散髪せず。床屋も贈物がなければ散髪してくれずと。自ら髪をすく。不可解なり黒き虱二匹頭髪より落つ。髪はすでに半白にして、虱わく。戦争なるかな。この戦も敗戦に終る。次に来たるは如何なる不幸ぞ。

家内下痢で臥す。夕食の用意をす。魚屋に中元を持たしてやると現金にも鯖六片(七円)くれたり。醤油もみそもなければ塩ゆでにして、ソースをつけて食う。その他野菜の雑炊。焼パン。一時間でできることを家内はつねに大袈裟にいう。自らするにかぎる。特にパンはカステラの如くよくできたり。

八月十六日 木

早朝下痢。力なし。子供等家なければ返子の前田に家のことを頼むようにときりに言う。手紙を書く。



『疎開日誌』

昭和 20(1945)年 8 月 15 日

8 月 14 日、日本はポツダム宣言を受諾して降伏、翌 15 日正午、昭和天皇による終戦の詔書がラジオで放送された。光治良は疎開先の軽井沢でこれを家族と共に聴いた。

光治良が戦前から戦後にかけて記した日記原書とその翻刻文を掲載。また当時の写真や雑誌寄稿作品の掲載頁等を掲載。

1937(昭和12)年～1955(昭和30)年 戦中・戦後時代年表

【凡例】

・日本及び国外の主な出来事については『近代日本総合年表第四版』岩波書店編集部編(2001年11月26日 岩波書店)を基に作成した。

・芹沢光治良については『日本ペンクラブ五十年史』(1987年11月25日 日本ペンクラブ)※1、『略年譜』鈴木吉雄(『新潮社』1995年7月10日 新潮社)、『主要著作目録』鈴木吉雄(同)、『評伝 芹沢光治良―同伴する作家』勝呂泰(2008年9月21日 翰林書房)、『芹沢光治良・著作目録』芹沢光治良文学愛好会編(2014年5月31日 芹沢光治良文学愛好会)、『芹沢光治良戦中戦後日記』沢光治良(2015年3月23日 勉誠出版)※2を基に作成した。

年	月	政治・経済・産業・技術・社会・国外	学術・教育・思想・芸術	芹沢光治良の主な出来事と作品
1937 (昭和12)	7	7.7 深夜、盧溝橋で日中両軍衝突(日中戦争の発端)	7.17 松本学・林房雄・中河与一・佐藤善夫ら、新日本文化の会結成、発会式	夏頃、実弟の武夫、義弟の藍川清英が中国へ出征
	8	8.24 閣議、国民精神総動員実施要綱を決定	8- 吉川英治・吉屋信子・尾崎士郎・林房雄ら、各社特派員として戦地へ赴く	
	10	10.12 国民精神総動員中央連盟結成	9- 矢内原忠雄「国家の理想」(『中央公論』)全文削除される	10.2 養父石丸助三郎死去(70歳)
	12	12.13 日本軍、南京を占領 12.15 山川均・加藤勲十・大森義太郎ら労働派など400人余を検挙(第1次人民戦線事件)	林要・宮本百合子・中野重治・鈴木安蔵・堀真琴の原稿掲載を見合わせるよう内示	12.3 義母藍川しむ死去(59歳) 12- 「菊の花草」(『改造』)(『愛と死の書』第1章)
1938 (昭和13)	3	3.13 ドイツ、オーストリア併合	3- 石川達三「生きてゐる兵隊」(『中央公論』、2.18発禁、8.4 起訴、45年12月刊)	3- 「競馬官の頃」(『文芸春秋』)
	4	4.1 国家総動員法公布、5.5 施行		4.29 改造社の特派員として中国を巡歴、戦跡を見聞する(～6.14、6.15 帰国)
	7	7.11 張鼓峰で国境紛争おこる、7.29 沙草峰で日ソ軍衝突、8.10 日ソ停戦協定成立	7.30 内務省、個人主義排除など映画の内容制限を各社に要請	7.13 四女玲子誕生
	8	8.22 大本営、武漢攻略を命令 9.19 広東攻略を命令	8- 火野葦平「麦と兵隊」(『改造』、9月刊、この年、100万部突破)	8- 「孤雁」(『改造』)(『愛と死の書』第3章)
	9	9.22 中華民国政府連合委員会、北平に成立(主席委員王克敏、臨時・維新両政府の連合) 9.27 陸軍省、新聞紙を情報部と改称 9.30 ミュンヘン協定 調印	9.11 従軍作家陸軍部隊、漢口へ出発(内閣情報部委員、久米正雄・丹羽文雄・岸田国土・林芙美子ら) 9.14 海軍部隊出発(菊池寛・佐藤善夫・吉屋信子ら)、9.27～28 詩曲部隊出発(西城八十・古閑裕而ら)	9.14 「幸福の鏡」(『中外商業新報』～39.4.19)
1939 (昭和14)	1	1.4 近衛内閣総辞職 1.6 独外相、3国同盟案を正式提案	1.28 東京帝大総長平賀譲、経済学部河合栄治郎・土方成美両教授の休職処分を文相に上申	暮れから正月にかけて傷兵保護院の案内で千葉の療養所などを見学 1- 「草笛」(『新潮』)
	3	3.9 兵役法改正公布(兵役期間延長、短期現役制度廃止)	3.4 大陸開拓文芸懇話会結成式 4.25 国策ペン部隊、満州へ出発	3- 「南寺」(『中央公論』)
	5	5.12 満蒙国境ノモンハンで、満・外蒙両軍隊衝突(「ノモンハン事件」の発端)	5.17 美術文化協会結成 5.29 文部省、小学校5・6年と高等科の男児に武道(柔・剣道)を課す	5- 「生きる日の限り」(『婦人公論』) 5.19 「愛情の蔭」(改造社)
	6	6.6 5相会議、中国に新中央政府を樹立する方針を決定	6.14 第一師団軍法会議、キリスト者集団(灯台社)の明石真人・村本一生を不敬罪・抗命罪で懲役刑	6- 「眠られぬ夜」(『文芸』)
	7	7.8 国民徴用令公布 7.15 施行		
	9	9.1 ドイツ陸・空軍、ポーランド進撃を開始(第2次世界大戦始まる)		

巻末には別綴じ付録として、新規作成の年表
(昭和12年の日中戦争から太平洋戦争を経た戦後の昭和30年までの日本及び世界の
の主要な出来事と光治良の動向や発表した作品を記したものを掲載。)